



Junior Chamber International NAGAI

2015 HANDBOOK

基本資料・事業計画 並びに収支予算書

事業年度 自 2015年1月1日
至 2015年12月31日

The Creed of
Junior Chamber International

We Believe;

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;

That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;

That government should be of laws
rather than of men;

That earth's great treasure lies in
human personality ; and

That service to humanity is the best
work of life

《邦訳》

我々はかく信じる：

人生に意味と目的を与えてくれるのが信仰です。

人類の同胞愛は、国家の主権すら超えたものであります。

経済の正しい発展は、自由経済社会によって、最もよ
く成し遂げられます。

政府の運営は、人によって左右されず、法によつて
なされるべきであります。

この世の本当の宝は、人間の個性であります。

人生最善の仕事とは、人類への奉仕であります。

わたしたちは、以上の事を信じます。



公益社団法人 長井青年会議所

[設立]1966年2月24日 [JC認証番号]317 [JC認証伝達]1966年6月26日

[社団法人格認可]1977年7月28日 [社団法人格許可番号]3036

[公益社団法人格認可]2012年1月4日

Name _____

Home Address _____

Home Phone _____

E-mail Address _____

Business _____

Business Address _____

Business Phone _____

Fax _____

Mobile Phone _____

JCI Mission

To provide development opportunities that empower young people to create positive change.

《邦訳》

より良い変化をもたらす力を青年に与えるために
発展・成長の機会を提供すること。

JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens.

《邦訳》

若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること。

J C 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り開き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動する事を宣言する

綱 領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうするもの 相集い 力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

東北 J C 宣言文

われわれは
新たな価値を創造する旗手として
尊い「結」の精神を呼び覚まし
かつてない未来を切り拓くことを誓う

J C ソング

一、 J C J C J C J C

世界を結ぶ 若き団結
せかいむす わかちから

新しき世紀の 希望となりて
あたらしよ のぞみ

永遠に繁栄えん 我等の集い
とわ さかさ われら つど

二、 J C J C J C

奉仕の理想 探求しつづ
ほうし りそう もとめ

祖国の進歩の 力となりて
くに あゆみ ちから

先駆けゆかん 我等の集い
さきが われら つど

若い我等

一、 若い我等が 手を取り合つて

進む行手の 青い空に
輝く J C 明るい希望

足なみそろえて
行こうじゃないか

二、 世界を結ぶ 若さの力

互いに尽くす 楽しさこそ
J C の理想だ 新しい日だ

足なみそろえて
行こうじゃないか

三、 若い我等の 心を集め

つくる集いに 未来をかけて
J C の仲間が 皆信じあう

足なみそろえて
行こうじゃないか

明日のために

一、 若さと若さが 手を結び

明日にいつも 向うのだ
豊かな未来めざしつづ

日本の道を 創ろうよ
行こう J A Y C E E

二、 心と心を つなぎ合い

大きな虹を かけるのだ
生きてることの喜びを

すべての人に 投げかけて
行こう J A Y C E E

明日のために

三、 命と命が 満ちあふれ

光りとなつて 燃えるのだ
世界の窓に いつの日も

希望の夢は はばたくよ
行こう J A Y C E E

明日のために

公益社団法人長井青年会議所は1966年、長井の未来を拓く青年経済人が集い、県内4番目の青年会議所として創立されました。以来45年にわたり先輩諸兄から脈々と受け継がれた地域を愛する精神と、若さあふれる発想を持って地域社会の発展のためまちづくり運動を展開してまいりました。今年度、ひとつの節目を迎えるにあたり今まで以上に地域社会から必要とされる存在であり続けるために、活動の道しるべとなる今後5年間の運動指針を提言します。

〈2010～2014年〉

公益社団法人 長井青年会議所 運動指針

確かな地域連携社会の実現へ

～共に手を取り合うこころ豊かな地域の創造～

【まちづくり】

人と人との交流の輪を広げることが、地域全体を巻き込んだ活性化とまちづくりに対する意識の向上に繋がります。我々青年会議所が主導的に地域の抱える問題をしっかりと認識し課題解決に取り組み、その地域が持つ様々な資源を最大限に引き出し活用することで、その地に暮らす人たちの愛郷心を育み、更なるまちづくりに対する参画を促し、こころ豊かに暮らせるまちの醸成に努めます。

【ひとづくり】

多種多様な個のちからを集積、融合することは様々な問題に挑戦できる「つよさ」となります。輝く地域の未来を創造する経験と学びの中から個のちからも高まり、混沌とした現状を打開できる勇気が生まれます。地域社会の問題を解決する手法を見出し、地域資源の保全と価値を提供できる人材の育成を行います。

【こころづくり】

地域の未来を担う子供たちがこころ豊かに成長するために、地域社会と家庭、学校が三位一体となり、それぞれが常に問題意識をもって、学びの機会を創出していく事が大切であると考えます。地域社会の豊富な教育資源を効果的に結びつけ活用するコーディネート機能を担いながら地域教育を更に実践して参ります。

スローガン

公益社団法人 日本青年会議所

2015年度 スローガン

美しく先駆けよう！

すべては未来を生きる人のために

公益社団法人 日本青年会議所

東北地区協議会

2015年度 スローガン

夢と希望溢れる輝く東北の実現

公益社団法人 日本青年会議所 東北地区

山形ブロック協議会

2015年度 スローガン

夢と希望に満ち溢れる「やまがた」の実現

公益社団法人 長井青年会議所

2015年度 スローガン

流 汗 悟 道

～未来を拓く原動力となれ！～

2015年度

基本資料



2015年度 理事長
板垣 洋一

所 信

はじめに

終戦から70年の時を経た私達の祖国、日本。経済成長も鈍化しつつあり、社会は成熟期に差し掛かりながらも科学の歩みは止まることなく、子供の頃に映画で見ていた夢のような科学技術も現実のものとなり、暮らしの中で実現されるようになりました。人類は宇宙に長期滞在が可能なステーションを建設し、日に日に宇宙開発技術が向上しております。実質社会と並行してインターネットの普及により電子空間が国境を越えて世界中に張り巡らされました。遺伝子情報が少しずつ解明され、遺伝子操作が植物や小動物を対象に行われるようになり、生命倫理についての考え方が一段と問われるような世の中にもなりました。あらゆることが進化し、暮らしは一日ごとに便利になっていく中で、私達はその科学によってもたらされた技術をきちんと使いこなしているのでしょうか。むしろ科学技術に振り回されているのではないのでしょうか。宇宙技術の軍事への転用、ネット社会がもたらすさらなる孤立化、遺伝子操作と生命倫理の葛藤など、幼い頃には想像もできなかった新たな問題が人類規模で世界を覆っています。このような社会だからこそ過去に目を向け、日本人が培ってきた他者を思う心を現代に生きる私達も身に付けなければ、問題の解決はおろか、更なる問題を次世代に押し付けることになりかねません。

2015年でちょうど50年の節目を迎えるこの長井青年会議所の諸先輩が「明るい豊かな社会の実現」に向けて取り組んできた幾多の運動は、その時代その時代のニーズを的確に捉え、若さあふれる英知と勇気と情熱を持って展開されてきました。「明るい豊かな社会」とは「全ての人が他者に対する思いやりの心を持ち、次世代の子供たちの笑顔によって照らされた社会」であると私は考えます。いつの時代も自分優先の考え方ではなく、相手の立場で物事を考え、優しさを持って接する心こそ、変わらず未来に向けて私達日本人が持つべき姿なのではないのでしょうか。そのような大人たちに囲まれて育った子供は、同じように思いやりの心を養い笑顔を絶やすことな

く次世代の担い手に成長していくと私は信じています。

諸先輩の志は50年を経た今でも変わらずに私達の胸を満たしています。変わらぬその志とともに、明るい豊かな社会の実現に向けて、私達は豊かな心を人の中に育て、子供たちの笑顔がまちを明るく元気にしていく活動をこれからも続けていきます。

流汗悟道

「流汗悟道」。真実を得るには自ら汗を流しながら行動していかなければならないという意味の禅の言葉であります。理想や夢を思い描くのは大切なことですが、実際に汗を流しながら行動に移していかなければ夢を現実のものにすることはできません。思い描くだけでなく実際に行動に移すことで真の結果は得られるものです。是非とも会員個々が失敗を恐れることなく自ら率先して行動を起こしていただきたいと思います。私達は1人ではありません。人の為、地域の為に共に汗を流そうと集まった仲間であります。個々の行動を仲間全体で盛り上げて大きな活動とし、さらには社会全体に影響を与える運動としていく為にもお互いを思いやりながら共に汗を流していきましょう。

たくさんの仲間たちと共に

J C活動を行う中で共に笑い共に涙を流しながら培ったその友情は、卒業して時間が過ぎても色あせることなく続いていきます。会員が増え仲間が増えるということは、個人の成長にも有益であり、それ以上に活動の幅が広がることで社会全体に及ぼす影響は大きくなります。私達が担っている西置賜を「明るい豊かな社会」としていく為にはまだまだ多くの仲間を募り、力を結集していく必要があります。

今年度私達長井青年会議所は30人の仲間と共にスタートを切ります。まだまだ私達の身の回りには沢山の仲間が埋もれているはずで、彼らと共に同じ地域に暮らす責任世代の青年としてこの地域のことを考え、未来を語り、行動を共にしていくことこそ活力のある西置賜の継続に必要な不可欠なことであります。まずは共にまちづくりを行うきっかけを私達が与え、同じ志を共有する仲間を地域全体に増やしていきましょう。

私達はただ奉仕活動を行うだけの団体ではありません。奉仕を通じて修練し、友情を育んでいくことこそ自分たちに課せられた責任であります。それぞれの活動を通して、一人ひとりが地域のリーダーとなるべく成長を遂げなければなりません。今年度人材育成の一つのテーマとして自ら率先して行動を起こし、家庭、会社、そして地域の代表として牽引できるリーダーシップを養えるよう成長の機会を持ちたいと思います。

私自らリーダーとして地域に眠る若い人材を掘り起し、共に活動

をする仲間を増やしていくことを心に誓い実行に移していきます。

次世代の子供たちの為に

私は子供時代自分に自信を持つことができませんでした。友達と比べて頭が良いわけでもなく、スポーツが得意ということでもありませんでした。他人よりも秀でた物などなくそのことが劣等感となり、将来の自分の人生を悲観的に考えたりもしました。社会に出て働くようになり、20代の半ばを過ぎた頃、長井青年会議所に出会いたくさんの経験をさせてもらう中で少しずつ自分らしさに気付き、自信を持つことが出来るようになりました。青年会議所で行う事業を通して、まちづくりが好きになりこの年齢に至って自分がこの先生涯にわたって、人の為地域の為に社会の役に立ちたいと思えるようになりました。

生きる力とは、自分らしさを見つけ自分に誇りを持つことから育まれるものだと思います。夢や将来の希望とは、自分自身を受け入れ自信を持つことから始まるのではないのでしょうか。そのことが、失敗を恐れず挑戦しどんな困難にも負けないたくましさを生み出す大きな要素であると考えます。

人と人の繋がり方も多様化している現代において、子供達の生活環境もまた複雑になっています。そのような時代だからこそ、子供たちの根源的な生きる力を私達大人が育んでいく必要性が高まっております。

今年3年目を迎える「ながい寺子屋」。青少年育成事業ですが今年は複雑になっていく社会の中で子供達が困難にぶつかっても乗り越えていく力を育み、自分らしさを見つけ自信に繋げていくことを念頭に置いてひとづくりに共に汗を流していきましょう。

地域住民の助け合いによる社会生活に向けて

長井青年会議所が設立された1966年当時日本は経済の成長期の中にありました。人口が1億人を超えたのもこの年であります。それから月日が流れ現在の日本は国家としてまさに成熟期にさしかかっております。人口も減少傾向に転じ高齢者が増え、出生率は回復しないまま現在を迎えています。ここ西置賜に目を移しても例外ではありません。子供たちの数が減少する中、老人のみで生活をしなくてはならない世帯数も増えております。50年前から私達の諸先輩が取り組んできた地域社会の活性化運動は今こそ更なる必要性が増しているように思われます。

地域の中で生活していく以上、そこに住む人々にはそれぞれに課せられた役割があると思います。それは河川の清掃作業や除草作業などの地域インフラの維持管理であったり、地域住民の活発な交流を引き出す運動会や文化祭などのイベント、古くから行われてきた神社の例祭など、行政ではなく住民主体の活動は今後も長く地域社

会を維持していく為の住民の責務であります。しかしながら現状はそれらの活動に参加する人の数が減少傾向にあるのではないのでしょうか。参加する人が固定化し、また高齢化していく中、もっと幅広い住民の参加協力を引き出していくことが必要であります。その上でも地域全体で人々がお互いに顔を合わせ、認識を深め合う重要性が高まっていると思います。

このような社会構造だからこそ地域の人々は手に手を取り合い、互いに協力しあいながら協同の社会生活を送る必要があるように思います。災害などの有事の際だけでなく、常日頃から協力し合うような人間関係を構築する上でも、地域コミュニティの中で顔の見える場が必要であると考えます。

2015年長井青年会議所が50周年を迎えるこの年、私達は地域の子供からお年寄りまで住民が互いに顔を合わせ協力し合える地域社会となるよう、地域コミュニティ内で絆を深める機会を作り出すことをテーマとしてまちづくりに汗を流していきましょう。

地域との連携による活性化事業

私達が暮らすここ西置賜は、自然豊かで水清く人情味がありとても住み良い街であると誇りに感じます。人口の減少に伴って、過疎化や限界集落という課題を抱えている現代社会ではありますが、私達はこの地域に暮らす責任世代として、これらの課題を克服していかなくてはなりません。これからのこの西置賜にさらなる活力を加える為にも、地域社会全体となって元気を創出していく必要があります。

地域活性化事業「みんなで灯そう夢灯」は、子供たちの夢や願いを地域全体に発信し、彼らの夢を実現できるような元気のある社会を、地域全体で作上げていこうという思いを共有する為に行っている長井青年会議所の重要事業であります。子供達が素直な心で思い描く夢や希望を目にすると、そこには日本の明るい未来を見出すことが出来ます。ある少年は科学者となり世界を取り巻く環境問題を解決したいという夢を描いていました。またある少女は世界の平和を願い、誰かの役に立てるような大人になりたいという思いを描いていました。あらゆる社会問題が蓄積したこの世の中にあり私達は将来に不安を抱きながら生活をしています。子供たちの明るい希望を目にした時、私は自分達に与えられた責任を強く感じます。私達は社会の責任世代として地域に活力を取り戻し、子供たちの夢や希望を現実のものにできる、元気な地域社会を築いて行かなければなりません。

社会にそれらの思いを広めていく活動としての地域活性化事業「夢灯」。今までも、私達青年会議所だけでなく、学校、行政、共にまちづくりを行っている多くの団体・個人と協働で行ってまいりましたが、7年目となる今年度は、さらに広い地域で多くの人々に

自分達の地域の誇りと明るい未来を作り上げようとする思いを共有し、長井・西置賜のさらなる発展に繋げていくことを念頭に、汗を流して活動していきましょう。

東日本大震災を忘れない為に

東日本大震災発災から数えて4年の年月が過ぎました。被災地復興の歩みは思いの外遅くまだまだ当時の面影のまま時間だけが過ぎていく現状にあります。被災地から遠く避難されている人々も未だ仮設住宅での生活を余儀なくされており、被災された方々にとっては未だ現在進行形の震災であると思います。

私達にしてみれば数年の月日経ち、当時の記憶もどこか薄れ始めている人も少なくないと感じます。同じ東北人として今日、私達は何を考えどんな行動をとれば良いのでしょうか。人によってその答えは変わるのでしょうが、共通して言えることは当時の記憶を風化させないという一点にあるように思います。

私達の住む西置賜地方は内陸の為津波に襲われることはないかもしれません。しかしながら昨今の気候の変化に伴い、豪雨による水害は各地で確認されるようになりました。震災当時の教訓を下に水害に対する備えや心構えが必要になっております。常日頃の備えを怠らないことが震災の記憶の風化を抑制する一つの方法であると考えます。今一度当時の事を振り返り、これからの西置賜の地域防災に繋げていきましょう。

県内外の仲間達との絆

2014年ここ長井の地で15年ぶりの青年会議所の県大会、第47回山形ブロック大会長井大会が盛大に開催され、改めて多くの県民と県内青年会議所メンバーに西置賜の素晴らしさを発信することが出来ました。私達長井青年会議所メンバーはもちろんですが、山形ブロック協議会ははじめ県内各地の青年会議所からも惜しみない協力と支援を頂いて成功に導く事が出来ました。大会事業を通して培った彼らとの友情は、西置賜のみならず今後の山形県全体の活力を生み出す大きな源であります。

「Link Together～水集う地から やまがたを潤す大河となれ～」、ブロック大会長井大会のスローガンに掲げた人と人、人とまちとの繋がりを大切にして活力ある山形の実現に向けて行動していかうとする信念を心に留めておきながら、今年度は出向を通して県内各地で活動の輪を広げていきましょう。西置賜での活動だけでは得ることのできない県内県外の会員との友情、そして出向先での経験は視野を広くし柔軟な思考を与えてくれます。時間のやりくりし苦勞をしてもそれは必ず自身に活かせる技術として助けになるはず。躊躇う前に一歩踏み出して積極的に対外青年会議所の事業に取り組んでいきましょう。

50周年を迎えて

2015年でちょうど設立50周年を迎える長井青年会議所。たくさんの諸先輩方が「明るい豊かな社会」の実現に向けてその時その時の社会の在り方を考え、事業を通してそれらの実現に向けて努力を重ねて来られました。私達がこの豊かで美しい西置賜地域の中で生活をしていられるのも諸先輩方とその都度協力を惜しまず青年会議所活動を支援して下さった地域の方々のおかげであります。50年の節目を迎えるに当たり私達はそのことに深く感謝し、先輩方の地域に向き合う姿を模範として次世代へ櫛を繋げていきたいと思えます。社会がどんなに変わろうと私達青年会議所が掲げる「明るい豊かな社会の実現」という命題は変わりません。50年という輝ける歴史と共に今後10年、100年とこの長井西置賜が豊かに輝き続けるよう、今まで以上に情熱を燃やして青年会議所活動に取り組んでいきましょう。

結びに

長井市に生まれ36年。一度故郷を離れ22歳に家業を継いで早14年の歳月が流れました。その間長井青年会議所での活動は10年になります。塗装工として仕事以外に何も知らなかった私に長井青年会議所はその活動を通して自信とやりがいを与えてくださいました。自分の為、会社の為という考え方しか持ち合わせていなかった私です。自分の暮らす地域に対して目を向けることなどそうそうありませんでした。人間関係に広がりが出るわけもなく、仕事以外の時間を埋める作業を無気力に行っていた記憶があります。そのような状況に長く身を置くうちに自分とはこの世の中で何を成すべきなのか、悶々と考えながら無為の時間を過ごしていました。そんな中長井青年会議所の先輩に声を掛けて頂き入会することを決めました。常識も解らないような私に礼儀作法をはじめ人との付き合い方やまちづくりの考え方など、諸先輩に手取り足取り教えていただきながら少しずつ人の役に立つこと、地域の役に立つことの充実感と責任を学ぶことができました。事業の中で子供たちの笑顔を見ること、お年寄りとの些細な会話が楽しいと実感できるようにもなりました。そうして少しずつ自分に自信を持つことが出来るようになり、今ではひとつくりまちづくりが自身のライフワークとして確立した生涯のやりがいであると言えるようにもなりました。

そしてまた青年会議所は、共に汗を流し喜びを分かち合えるかけがえの無い仲間達を与えてくださいました。様々な事業を通して苦楽を共にし、故郷を語り合い、心から笑いあえる彼らとの友情は私にとって何ものにも代えられない財産であります。

多くの学びと気付きを与えてくださった諸先輩方と仲間達、そして私が大好きなこの長井西置賜に僅かでも恩返しができたらと思ひ、公益社団法人長井青年会議所2015年度第50代理事長に手を上げ

ました。この地域が子供たちの笑顔で明るく照らされ、互いを思いやる豊かな心が人々に育まれるよう、全身全霊をあげ率先して汗を流し活動に取り組んで参ります。その誓いを結びとして所信といたします。

さあ、皆で共に汗を流そう！

基本理念

りゅう かん ご どう
流 汗 悟 道

基本方針

- ・地域社会全体が関わる、未来を担うたくましい子供たちの育成
- ・他団体、個人との有機的な連携を通して、活力ある地域の実現にむけた運動の展開
- ・公益的な組織の一員としての自覚を持ち、地域が必要とする活動の実施
- ・会員拡大及び会員の資質向上と組織力の強化による運営体制の確立
- ・会員全体で盛り上げる例会、事業、委員会活動の実施

重点事業

- ・どんな状況下にも置かれてもたくましく成長できる子供たちを育成する、ひとづくり事業
- ・地域の人々が互いに協力し合える関係性を育み、協調し合う絆を深める機会を提供する、まちづくり事業
- ・共に地域の未来を明るく照らす仲間を増やし、長井JCの運動を大きく発展させる為の、会員拡大事業
- ・社会のリーダーとして、積極的に行動を起こせる力を育てる、人材育成事業
- ・長井JCの50年の運動に対する地域社会への感謝と、さらなる飛躍を誓い、発信する、50周年記念式典の実施
- ・全国大会東北八戸大会への全面的支援
- ・他団体との積極的な交流と協力

スローガン

流 汗 悟 道
～未来を拓く原動力となれ！～

所 信

未来創造会議 議長 齋藤 繁喜

長井・西置賜の未来を担う青年が集い、品格ある責任世代として共に磨き合い、市民意識変革運動の中心となって「まちづくり」「ひとづくり」を通して明るい豊かな社会の実現を目的として活動・運動を展開し、半世紀を迎える長井青年会議所。創立50周年の節目となる本年、諸先輩方が築き上げてきた歴史と伝統を踏まえ、10年、20年、50年先まで愛する地域の未来を創造し続けるために長井J Cの未来について改めて考え、行動して参ります。

未来創造会議は、長井J Cの未来を創る「会員拡大」、「人材育成」、「長井J C運動指針の策定」について、我々が出来ることは何かを常に自問自答し、年間を通して強固な組織の土台を築き上げる事を目的として活動を展開して参ります。この地域にJ Cが存在し続けること、それが地域の明るい未来の創造に繋がると考えます。だからこそ、会員の拡大を続けることが、まちづくり運動の原点という強い信念を持って行動し、すべてのメンバーが拡大に取り組む事から最大のJ C運動に繋がると強く信じております。会員拡大の本質は、組織存続のためだけではなく青年会議所運動を通して、地域のリーダーとなり社会にインパクトを与えられる人財を育成し、一人でも多く輩出することが青年会議所としての責務であると考えます。今年度の会員拡大は、決して単年度で終わることの無い仕組みやルールを構築し、定期的に拡大戦略会議を開催することで、進捗状況の確認や目標・計画の見直しなど全メンバーで共有し、拡大に対する意識をさらに強化して参ります。また、会員拡大のみを目的とした狭義の活動ではなく、あらゆる世代を通じて青年会議所への良き理解者と青年会議所運動に対する協力者や参加者の拡大にも繋げていくことが重要であると考えます。

この地域には、我々と同じ志を持った青年がまだまだ沢山います。新たにお迎えした同志に対しては、青年会議所の一員としての誇りと自信と使命感を高めるために、基礎的な知識を習得して頂くことは勿論、長井青年会議所メンバーとしての大切な義務を身につけて頂き、一日も早くJ A Y C E Eとして活躍できるよう責任を持って指導して参ります。一年間、どうぞ宜しくお願いいたします。

青年会議所運動の原点・・・それは、会員拡大運動である。

さあ、長井J Cの拡大戦士たちよ、50年の節目となる決戦の時がきたのだ！

2015年、魂を焦がして会員拡大に取り組もう！
長井・西置賜の未来は、我々が切り拓いていくのだ！！

所 信

創立50周年実行委員会 実行委員長 齋藤 繁 喜

1966年6月26日、長井・西置賜を活動エリアとし、経済の進展、郷土繁栄の担い手として気概と覚悟を持った青年たちにより全国317番目のLOMとして設立された長井青年会議所は本年、半世紀を迎えます。恵まれた豊かな自然、伝統・文化、人が共存するこのまちで50年という長きにわたり組織を創り、歴史を積み重ねていただいた先輩諸兄に心から敬意を表します。50年の記念すべき節目を迎え、改めて伝統の素晴らしさと継承する事の大切さを再認識し、この組織の運動をより多くの皆様に伝播すべく邁進して参ります。それが、地に足を付けて活動することに繋がり、60年、70年、そして100年目を着実に迎えることのできるさらに大きな誇りになると考えます。

創立50周年実行委員会は、記念式典・記念祝賀会の開催、記念誌の発行を軸として事業を行って参ります。長井JCの歴史と伝統を築き上げてこられた先輩諸兄の50年間の功績に心から感謝し、これまでの歩みを振り返り、JCの意義や志を再確認し、これからの時代に即した進むべき方向性を見据え、未来に向かって確かな一歩を踏み出す場として創立50周年記念式典及び祝賀会を開催いたします。日頃より大変お世話になっております行政、関係諸団体の皆様、各地青年会議所同志の皆様、先輩諸兄の皆様へ50周年を迎える事への心からの感謝を表し、ご来場された皆様の心に響く長井JCならではのおもてなしをいたします。また、記念誌の制作発行においては、設立以来の歴史や過去の事業を振り返り、先達の熱き想いと功績をしっかりと伝承し、過去から現在、そして未来へと繋げていく道標といたします。

結びとなりますが、連綿と受け継がれる歴史の中で諸先輩方が築き上げて下さった長井JC半世紀の矜持を胸に、板垣理事長のもと、公益社団法人長井青年会議所メンバーの心をついにし、創立50周年記念式典・祝賀会の開催に向けて一丸となって邁進して参ります。一年間どうぞ宜しくお願いいたします。

所 信

副理事長 小 関 幸 一

私は、子供のころ親が家にほとんどおりませんでした。祖父、祖母が、私と兄弟の面倒をみてくれました。家が田舎ということもあり、どちらかというと、外で自由にのびのびと遊んでおりました。私のやりたいことは、否定せずに何事も挑戦させてくれた、悪いことは悪いときちんと叱ってくれたり、良いことは褒めてくれたり、大人になるまで、何不自由なく育ててくれ、親や家族がいてくれたことに、感謝の心と、私自身の安心感や自信に繋がっていると思います。青年会議所に入り6年目を迎えます。沢山の出会い、事業に携わせて頂く事で、年々少しずつ自分に自信をもって行動することができて来ました。まだまだですが、私も心から長井・西置賜の地域のために社会の役に立ちたいと考えるようになりました。ありがとうございます。

子供たちの生活環境は年々変わってきています。ネットやゲーム、携帯電話などが身近になり、子供たちのコミュニケーションも複雑になり、人との付き合いが難しくなっていると感じます。これからの社会を生きる子どもたちは、自ら課題を発見し解決する力、コミュニケーション能力、物事をさまざまな観点から物事を明らかにする力、様々な情報を取捨選択できる力などが求められると思います。今年度、3年目を迎える青少年事業「ながい寺子屋」は生活環境が複雑になっている昨今、子供たちが自ら考え、行動し、失敗を恐れず挑戦し、自分を信じ困難を乗り越えることができる生きる力を、私たち大人が育てていく必要があります。

最後に、今年度、はじめて副理事長という大役を仰せつかり誠にありがとうございます。理事長の思い、これまで、諸先輩方や仲間から教えて頂いたことを、きちんと委員会メンバーに伝え、率先して汗を流し、行動して参ります。一年間はあつという間です。限られた時間で、中身のある、有益な委員会活動になるよう委員長、副委員長、幹事と連携をとり、気を引き締めてJC活動に取り組んでいきます。一年間、どうぞ宜しくお願いします。

所 信

副理事長 梅 津 壮一郎

私たち公益社団法人長井青年会議所は、設立してから50年間に渡り、その時々地域情勢を的確に感じ取りながら、地域に根差した活動を展開してきたことにより、地域から求められる団体として一步一步進んで参りました。私達は、この先輩諸兄から受け継がれてきた伝統やまちづくりに込める想いを、次の世代にもしっかりと受け継いでいかなければなりません。創立50周年という節目を迎える今年、長井青年会議所がさらに進化していく為にも、時代の流れと共に変わっていく地域の諸問題と真摯に向き合い、愛する故郷の為、「英知と勇氣と情熱」を持って活動に取り組んで参ります。

私たちが描く「明るい豊かな社会」の実現の為には、地域住民の参画なくしては成し遂げられることはできません。行政やまちづくりに関わる他団体の方々との連携を強固なものとし、まちづくりの輪をさらに拡げていきたいと思えます。そして、地域住民が生まれ育った故郷を誇りに思い、郷土愛を育めるような事業を展開して行きます。

近年、豪雨による被害や火山噴火による被害など、自然災害による甚大な被害が全国各地を襲っております。比較的災害が少ないと思われてきた山形県内でも水害による被害が頻発しております。私達は、絶えず防災意識を高く保ち、平時より災害に備える必要があります。そして、防災・減災に関わる当事者としての意識をメンバーと共有するとともに、想定外の災害が起こる可能性も視野に入れながら、必要な環境整備や、有事の際にも機能し得るネットワークの構築に努めていかなければなりません。

最後に、このような貴重な機会を与えて下さった板垣理事長をはじめ会員の皆様に感謝を申し上げます。今年一年間まちづくり委員会担当副理事長として、理事長が掲げる「流汗悟道」という基本理念のもと、地域の為・子ども達の未来の為、率先して汗を流し行動して参ります。今年一年間どうぞよろしくお願いいたします。

所 信

副理事長 佐藤真光

本年度、副理事長という任をお預かりし、これまで以上に責任の重大さを痛感すると共に、「夢灯」事業を担当する委員会の担当副理事長として意気に燃えています。個人的に思い入れがある事業ですし、やるからには楽しく、そして地域から何を求められ、自分には何が出来るのかを常に自問自答しながらしっかり活動をしていく所存です。

「夢灯」は今年で7年目を迎えます。これまで、子ども達の夢や願いを地域全体に発信し、その子ども達の夢を実現できるような、元気ある明るい豊かな社会を作り上げるために積み重ねられてきた事業であります。そして、多くの地域の方々との連携を通して進化してきた事業でもあります。7年目の「夢灯」は更に進化を遂げた形の広域的な事業の開催を目指し、西置賜地域の多くの人々が、地域の誇りと地域の明るい未来ビジョンを思い描けられるような事業を展開していきます。

また、広域的に事業を開催する意義は、我々「長井青年会議所」の活動に対する地域からの認知度を向上させるためにも必要なことです。そうしたならば、由り多くの関係団体の構築や更なる連携の輪の広がりを見せられるのではないかと考えていますし、私たちと活動を共にする仲間を増やすことにも繋がると確信しています。その為には、これまで以上に地域のことに関心を持ち、自分たちで地域のことを調べ、足を運び、様々な地域の方々との対話を重ねることが重要です。既存の情報だけで判断するのではなく、自分たちで多くのこと見聞きし、地域を能く知ることを念頭に置き「夢灯」事業を計画実施して参ります。

最後に、優秀な玉橋委員長をはじめ経験豊富なメンバー、これからそのノウハウを学ぼうとする入会間もないメンバーの全員で協力し、何よりも楽しみながら充実した活動をしていきます。そして、板垣理事長が掲げる所信に則り、人の為、地域の為に共に汗を流し、時には仲間とチャージしながらも品格ある活動を心がけ、努めて取り組んでまいります。どうぞ、1年間よろしくお願い致します。

所 信

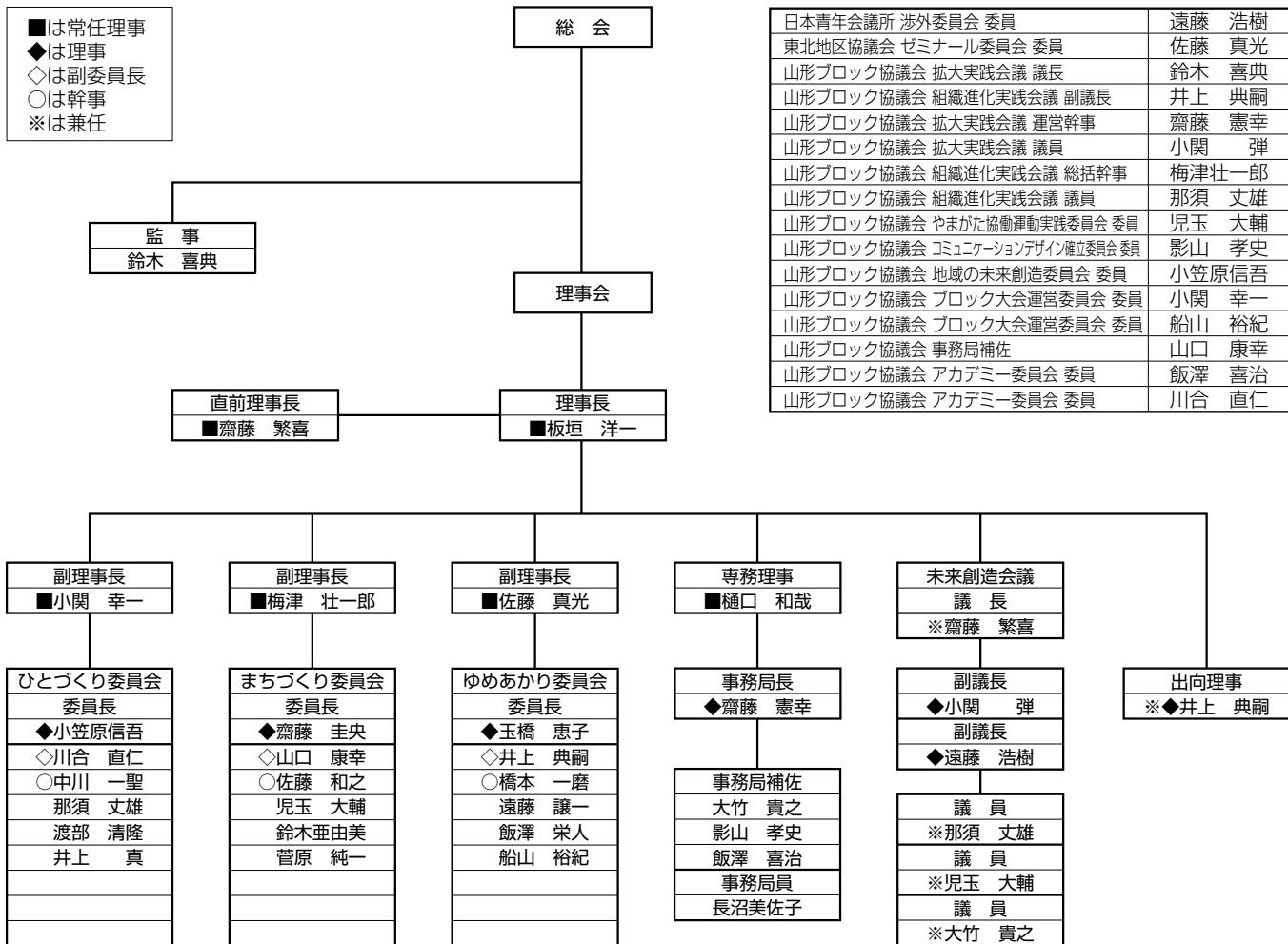
専務理事 樋 口 和 哉

昨年度、私たち長井青年会議所は1999年の開催以来15年振りに山形ブロック大会開催地「主管」という大変貴重な経験をさせて頂きました。今日の私たちの活動やこのような素晴らしい大会が実施出来ましたのも、1966年の設立から先輩諸兄が「明るい豊かな社会の実現」のためにその時代や地域情勢を的確に捉え地域に感謝し、率先してまちづくりやひとづくり事業を展開してこられたからだと考えます。当会設立から50年という節目を迎える本年、より地域から求められる団体として先輩諸兄より受け継いできた志と感謝の気持ちを胸に弛まぬ運動を続けて参ります。

今年度、専務理事という大役を仰せつかり身の引き締まる思いであるとともに、私自身事務方として活動させて頂くのは6年振りですが、その間、長井青年会議所は社団法人から公益社団法人へと移行し新たな道を歩みその時々で様々な事業を展開し、より公の益となるように地域のため次世代を担う子どもたちのために運動して参りました。今年度も各委員会が充実した活動、素晴らしい事業が出来るように全力でサポートして参ります。また、組織の運営を司る者として事務局メンバーとともに、組織の潤滑油と成る運営は勿論のことメンバーひとり一人が自らの資質向上に努められるように日本本会、協議会、その他様々な情報を提供・支援をしていきます。青年会議所という団体は様々な機会に溢れています。それを活かし自らの成長につなげていくのは自分自身です。二度とないこの年を決して無駄にすることなく、メンバーひとり一人の活動が組織としての大きな運動へと展開出来るようにこの先の未来を見据えた組織運営を心掛けて参ります。

最後に、板垣洋一理事長が掲げる「流汗悟道」という基本理念のもと、長井青年会議所を全力でお支えするという気概と覚悟をもち、自らの職務を全う出来るように行動して参ります。1年間どうぞよろしくお願いたします。

公益社団法人 長井青年会議所 2015年度 組織図



公益社団法人 長井青年会議所 2015年度 公式スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
		日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地	日付・開催地
(公社) 長井青年会議所	常任理事会	5日(月)	1月29日(木)	2月26日(木)	3月26日(木)	4月30日(木)	5月28日(木)	6月25日(木)	7月30日(木)	8月27日(木)	9月23日(木)	10月26日(月)	11月26日(木)
	理事会	8日(木)	5日(木)	4日(木)	2日(木)	7日(木)	4日(木)	2日(木)	6日(木)	3日(木)	1日(木)	2日(月)	3日(木)
	担当	2014年度事務局	事務局	まちづくり委員会	未来創造会議	ゆめあかり委員会	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局
	例会・総会	1月通常総会 27日(木)	山形ブロック協議 会長公式訪問 9日(月)米沢	地域防災セミナー	人材育成セミナー 24日(金)	長井駅周辺 整備事業	ブロック大会 むらやま大会 28日(日)	創立50周年記念式典 12日(日)	8月通常総会 20日(木)	次年度理事長 候補者所信(案) 発表例会	置賜4JC合同例会	講演会	卒業式 18日(金)
	事業	事務局	事務局			まちづくり委員会	まちづくり委員会	まちづくり委員会	まちづくり委員会	まちづくり委員会	まちづくり委員会	まちづくり委員会	まちづくり委員会
		新春賀詞交歓会 15日(木)				第2回JIC杯中学 野球大会(春季)	ふるさとOMOYARI プロジェクト21日(日)		納涼パーティー	創立50周年記念事業	JIC杯中学野球 大会(秋季)		クリスマス パーティー
							ゆめあかり委員会 地域活性化事業 みんなで灯そう夢灯 長井会場		ゆめあかり委員会 地域活性化事業 みんなで灯そう夢灯 小国会場	ゆめあかり委員会 ながい寺子屋 未来創造会議 JCA카데미 ゆめあかり委員会 地域活性化事業 みんなで灯そう夢灯 飯野会場	ゆめあかり委員会 地域活性化事業 みんなで灯そう夢灯 白鷹会場		
	サポート・その他		まちづくり委員会 ながい雪灯り回廊 まつり			事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局
						ながい黒獅子 まつり	ふるさと OMOYARI プロジェクト 21日(日)	17L OM協働運動 ふるさと OMOYARI プロジェクト 21日(日)	ながい水まつり	事務局・ゆめあかり委員 長井1000いも煮会 ぼくらのご案内	事務局	事務局	事務局
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
山形ブロック 協議会	正副会長会議 会員会議所会議	14日(木)新庄 31日(土)酒田	12日(木)尾花沢 28日(土)出東	12日(木)米沢 28日(土)山形	9日(木)河北 25日(土)鶴岡	14日(木)庄内中央 30日(土)長井	7日(木)上山 27日(土)村山			10日(木)山辺 20日(土)天童	8日(木)寒河江 24日(土)高島	12日(木)南陽 28日(土)酒田	
	主要事業	新春交歓会 31日(土)酒田	ブロック会長エリア訪問			県民参加型憲法事業 2日(土)山形	ふるさと OMOYARI プロジェクト 21日(日)					ブロック卒業式 28日(土)酒田	
	周年事業								長井JC50周年12日(日)				
	アカデミー委員会 総会	開講式31日(土)酒田										山形JC60周年9日(日) 天童JC45周年19日(月)	
東北地区協議会	正副会議	5日(月)仙台 30日(金)仙台	27日(金)仙台	27日(金)船橋	24日(金)埼玉	29日(金)福岡	26日(金)北上	24日(金)酒田	21日(金)花巻	30日(木)とめ	29日(木)寒河江	27日(木)いわき	
	役員会	16日(金)仙台	6日(金)仙台	14日(土)二本松	10日(土)酒田	8日(土)弘前	8日(土)会津	10日(土)石巻		4日(土)二本松	13日(土)盛岡	14日(土)大館	3日(土)青森
	会員会議所会議	23日(金)京都											
	ゼミナル委員会		7日(土)～8日(日)仙台	21日(土)～22日(日)盛岡	18日(土)～19日(日)酒田	23日(土)～24日(日)むつ	20日(土)～21日(日)泉	25日(土)～26日(日)横手			開校式 5日(土)～6日(日)二本松		
	主要事業		ゼミナル開校式 7日(土)8日(日)仙台	ゼミナル第1講座	ゼミナル第2講座	ゼミナル第3講座	ゼミナル第4講座	ゼミナル第5講座			東北青年フォーラム 5日(土)～6日(日)二本松		
(公社) 日本青年会議所	総会	24日(土)京都		22日(日)横浜									
	理事会	23日(金)京都	21日(木)	7日(土)	18日(土)	16日(土)	20日(土)	17日(土)横浜		19日(土)・25日(金)八戸	17日(土)	21日(土)	19日(土)
	ブロック会長会議	23日(金)京都	21日(木)	7日(土)	18日(土)	16日(土)	20日(土)	17日(土)横浜		19日(土)・25日(金)八戸	17日(土)	21日(土)	
主要事業	京都会議(京都) 22日(木)～25日(日)							サマーンアノリス(韓国) 18日(土)～19日(日) 国際アカデミー(東京)		全国大会(八戸) 24日(土)～27日(日)			
J C I	総会												
	理事会	JCI 1 常任理事会 「理事会」 (JCI JEM/BJM) 12日(月)～18日(日)				アフリカ・中東地域会議 6日(木)～9日(日)アクラ	ヨーロッパ地域会議 3日(木)～6日(日)クシェガス	JCI 1 中継常任理事会 (JCI MYE) 24日(金)～26日(日)クロー/0ル/バートン				JCI 世界会議 (金沢) 3日(木)～8日(日)	
	主要事業				アメリカ地域会議 20日(木)～23日(日)コチャパンパ	アジア 太平洋地域会議 11日(木)～14日(日)マレーシア	グローバル・トップア ンチアガメント(GPS) 28日(火)～31日(金)						

2015年度

事業計画

未来創造会議

1. 基本方針

我々は、人々の意識を変革する運動体として、多くの人々の心を動かせる魅力と人間力を持つ存在でなくてはなりません。近年、全国的に会員減少傾向の問題を抱えておりますが、市民、町民を巻き込んだ運動へと大きく発展していくために、地域のリーダーとなる人材の発掘と育成に注力する必要があります。

未来創造会議は、会員拡大と人材育成の2つの事業を柱とし、活動を展開して参ります。この地域にJ Cが存在し続けること、それが地域の明るい未来の創造に繋がると考えます。だからこそ、会員の拡大を続けることが、まちづくり運動の原点という強い信念を持って行動し、全メンバーが拡大に取り組む事により、最大のJ C運動に繋がると強く信じております。会員拡大の本質は、組織存続のためだけではなく青年会議所運動を通して、地域のリーダーとなり社会にインパクトを与えられる人財を育成し、一人でも多く輩出することが青年会議所としての責務であると考えます。今年度の会員拡大は、決して単年度で終わることの無い仕組みやルールを構築し、定期的に拡大戦略会議を開催することで、進捗状況の確認や目標・計画の見直しなどを全メンバーで共有し、拡大に対する意識をさらに強化して参ります。また、会員拡大のみを目的とした狭義の活動ではなく、あらゆる世代を通じて青年会議所への良き理解者と青年会議所運動に対する協力者や参加者の拡大にも繋げていくことが重要であると考えます。入会3年未満の新入会員の方に対しては、青年会議所の一員としての誇りと自信と使命感を高めるために、基礎的な知識の習得をはじめ、長井J Cメンバーとしての大切な義務を身につけて頂き、J A Y C E Eとして活躍できるよう責任を持って指導して参ります。

また、本年は創立50周年という節目を迎え、我々長井青年会議所は今まで以上に地域社会から必要とされる存在であり続けるために、活動の道標となる今後5年の長井J C運動指針を策定いたします。

2. 事業目的

1. 長井J Cの輝く未来を担う仲間の創出を行う
2. 会員の育成と意識改革と自己研鑽を行う
3. まちづくりを担う若者とともに学び、活力あるまちづくりを行う

3. 事業計画

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
会員拡大運動	新たな同志を長井JCに迎えるための会員拡大の先導・主務・実行。	通年	¥21,000	齋藤繁喜
人材育成事業	会員及び地域の青年を対象とした資質向上を目的とした人材育成事業の実施。	4月	¥350,000	小関 弾
長井JCアカデミー (新入会員指導育成事業)	基礎的な知識やメンバーとしての義務をはじめ、JAYCEEとして必要な指導と育成を行う。	9月	¥20,000	遠藤浩樹
長井JC運動指針の策定	今後5年(2015年~2019年度)の長井JC運動指針を策定する。	5月	¥0	全 員

予算合計 ¥391,000

創立50周年実行委員会

1. 基本方針

1966年に長井青年会議所が誕生して50年。この間、社会情勢は目まぐるしく変化し、東日本大震災等の自然災害の発災、経済不況、青少年犯罪の低年齢化、地域コミュニティーの希薄化など様々な問題を抱え、人々の心の豊かさが失われかけている時代とも言われています。このような時代だからこそ、我々長井青年会議所は、創立50周年を迎える節目にあらためて青年会議所運動を見つめ直し、メンバー同士の絆をさらに深め、「明るい豊かな社会」の創造を目指す必要があります。

創立50周年実行委員会では、記念式典・記念祝賀会の企画運営、記念誌の発行を軸として事業を行って参ります。長井青年会議所の歴史と伝統を築き上げてこられた先輩諸兄の50年間の功績に心から感謝し、これまでの歩みを振り返り、我々青年会議所の意義や志を再確認し、これからの時代に即した進むべき方向性を見据え、未来に向かって確かな一歩を踏み出す場として創立50周年記念式典及び祝賀会を企画運営いたします。日頃より大変お世話になっております行政、関係諸団体の皆様、各地青年会議所同志の皆様、先輩諸兄の皆様へ50周年を迎えることへの心からの感謝を表し、ご来場された皆様の心に響く長井青年会議所ならではのおもてなしをいたします。また、記念誌の制作発行においては、長井青年会議所設立以来の歴史や過去の事業を振り返り、先達の熱き想いと功績をしっかりと伝承し、過去から現在、そして未来へと繋げていく道標といたします。

最後に、50周年を通じてメンバーの絆、団結力がより一層深まることにより、次の節目となる55年、60年へ向けて必ずや飛躍できる一年とする事をお約束いたします。半世紀を一つの区切りと安堵するのではなく、そこから始まる51年目をメンバー一人ひとりが、どう歩み果敢に挑戦するかが大切であることを忘れずに、長井青年会議所がこれまで以上に地域から求められる団体となるよう歩み続け、未来に繋げて参ります。

2. 事業目的

1. 50年の歴史と伝統を誇りに、次なる50年に向けた姿勢を示す。
2. 行政、関係諸団体、各地青年会議所、諸先輩の皆様へ感謝の念を表す。
3. 設立から脈々と受け継がれてきた50年の軌跡を振り返り、未来へと繋げる。

3. 事業計画

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
創立50周年記念式典の企画・運営	50年という長井青年会議所の歴史の重み、感謝が伝わる式典の開催。	7月12日(日) 長井市民文化会館	¥225,000	式典部会
創立50周年記念祝賀会の企画・運営	長井・西置賜の魅力と感謝が伝わる記念祝賀会の開催。	7月12日(日) はぎ苑	¥0	祝賀会部会
創立50周年記念誌の発行	長井J C 50年の伝統、歴史が伝わる記念誌の制作、発行。	7月12日(日)	¥250,000	総務 広報部会

予算合計 ¥475,000

ひとつづくり委員会

1. 基本方針

教育とは明日の地域を担う人財をつくる不断の営みということができます。私達は、人に、地域に育てられ、現在JAYCEEとして活動しておりますが、私達も先達と同じように、人として、地域として、青少年達を育成すべきと考えます。そのため、長井青年会議所は、継続事業「ながい寺子屋」をはじめとする各種事業を展開して参りました。本年も同様に各種事業を展開して参ります。

現代社会は変化しており、教わったことを漫然とこなすだけでは足りません。問題にぶつかったとき、創意工夫をこらしていかなければならない場面も生じます。そのような状況の中、長井青年会議所は現代の青少年達にたくましく育ってほしい、そのように願っております。そして、私達は長井・西置賜の青少年達をたくましい青少年達に育てるため、以下の事業を展開しようと考えております。

まず、本年も「ながい寺子屋」を開催いたします。これまで「ながい寺子屋」は長井・西置賜の青少年達を困難を乗り越えることのできる、また自立性を備えた青少年になるような多大な成果を残してきたと自負しております。本年は創意工夫を行えるたくましい青少年を育成すべく事業を行うべく努めて参ります。

次に、現代においてはいじめ問題を解消することが大きな課題となっております。青少年達がたくましく成長するための妨げであるいじめ問題をどのように解消すべきでしょうか。数多くのいじめ問題に携わっている専門家をお招きして、そのきっかけを探っていきたいと思えます。

また、本年で24回目を数えるJC杯中学野球大会は、長井・西置賜に育った数多くの野球少年達に試練を与え、数多くの野球少年達の育成を支援してきました。本年も、同大会は長井・西置賜の野球少年達の育成を支援するものと考え、同大会を継続していきます。

青少年を育成することは将来の地域を担う人財を育成することであり、ひいては将来の地域をつくることと考えます。そのため、長井青年会議所は、本年も青少年達の育成事業に全力を尽くして参ります。

2. 事業目的

1. たくましさを備えた未来の人財の育成に寄与する。
2. 家庭の教育力を向上させる。

3. 事業計画

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
ながい寺子屋	現在、生じている問題とかかる問題への対処の仕方を体験してもらい、創意工夫ができるたくましい青少年を育成する事業	8月	¥270,000	全員
青少年育成講演会	子ども達を育てる保護者が、子ども達をたくましく育てられることを支援する事業	11月	¥262,000	全員
第24回 J C 杯 中学野球大会 (春季)	実戦経験を通じて子ども達の自己分析力や自己解決能力、社会性を身につける事業	5月	¥73,000	全員
納涼パーティー	O B と会員との親睦を深める事業	8月	¥0	全員
第24回 J C 杯 中学野球大会 (秋季)	実戦経験の少ない子ども達が、成長のための課題に気付く機会となる事業	10月	¥50,000	全員

予算合計 ¥655,000

まちづくり委員会

1. 基本方針

少子高齢化や核家族化に伴い、地縁的なつながりは希薄化し、全国的にも地域コミュニティ活動の担い手は不足しています。長井西置賜でも様々な場面で問題視され、今後の大きな課題となっていますが、まちづくり委員会では2つの事業を軸にその課題と向き合い、どうしたら人が集い、笑顔が溢れ、心の豊かさを実感できるかを考え、まちづくり活動を展開してまいります。

1つ目は地域防災に関する事業です。近年多発する異常気象により置賜地域でも甚大な被害が発生し、我々青年会議所の初動と支援は大変大きな役割を担ってきました。有事の際何をすべきかを学び・考えることは地域防災の基本であり、今年も継続して地域防災に力を入れ取り組んでまいります。さらに今年には長井青年会議所が創立して50年という節目を迎えるにあたり、その記念事業として今まで培ってきた地域防災能力を次のステップへ進める事業を行います。長井西置賜を活動エリアとし、全国各地の仲間と繋がる協力体制を有する当会だからこそできる地域防災のあり方を思案し、災害対応能力の向上に繋がる事業を展開してまいります。

2つ目はふるさとOMO I Y A R Iプロジェクトの開催です。昨年は当会の事業であるフラワーボランティア教室との合同開催により、大変多くの方に参加いただき好評を頂いたことが開催時と検証により実感でき、さらにAWARDS YAMAGATA2014の部門賞を受賞することができました。花育を通してたくさん子どもたちや地域の方々が集い、笑顔とOMO I Y A R Iの心溢れる事業を作興します。

理事長所信にある『流汗悟道』のもと、共に考え、共に行動を起こし、共に汗を流しながら事業を経て1年が過ぎた時、我々に携わり助力頂いた全ての人より多くの人との繋がりを強く感じ前に進むことができるのではないのでしょうか。確かな足跡を残し51年目に向けさらに歩みを進める力となりますよう、今年1年汗を流していきます。

2. 事業目的

1. 地域防災に対する意識を高め、さらに1歩進んだ地域間の連携を深める。
2. 環境整備、花育を通し地域住民とともに愛郷心を作興し心を豊かにする。

3. 事業計画

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
創立50周年記念事業 防災フェスタ2015	防災に対する連携強化と協働体制の構築	9月	¥500,000	全員
ながい OMO I Y A R I プロジェクト	花植えを通し命の大切さ、郷土愛を育む事業	6月21日 最上川河川 緑地公園	¥70,000	全員
クリスマス パーティー	メンバーと家族が親睦を深める事業	12月	¥0	全員
地域防災セミナー	地域の防災についての意識向上	3月	¥10,000	全員

予算合計 ¥580,000

ゆめあかり委員会

1. 基本方針

近年、全国的な少子高齢化や人口減少が進み、地域経済や住民生活等に大きな影響を与え、地域の存立基盤に関わる問題となっています。地域による経済の縮小や活力の衰退により、コミュニティ機能の維持が困難になりつつあり、若者の地域離れや過疎化が進んでいます。しかし、私達が住む長井・西置賜には、先人達が守り育ててきた自然や歴史、文化があり、東日本大震災の経験によって見直された「地域の絆」や「人と人とのつながり」が根付いています。これらの地域の良さを十分に活かしながら、地域に住む人達が自分達の住むまちを誇れるよう、私達は活動を行っていきます。

開催7年目を迎える地域活性化事業『みんなで灯そう夢灯』は、子ども達が将来の自分や故郷を思い描き、その夢や願いを地域に発信することで、子ども達の夢を実現できるような明るい未来を地域全体で作上げていこうという趣旨で継続されてきました。これまで、行政や他団体と連携・交流を図りながら実施を重ね、地域のイベントとして認知され定着してきています。

今年は夢灯の事業規模を長井から西置賜に拡大し、広域的な地域活性化を図ります。より多くの人々に夢灯を体感いただくことで、生まれ住む地域の良さを再確認し、地域を愛する心と活力を生み出します。また、事業に係る協力者を募り、まちづくりに携わる団体や個人が市町を越えて交流する場を設け、長井・西置賜の一体感の創出と更なるまちづくりの輪の拡大を図ります。特に、次代の担い手である若者が、事業を通して喜びや満足感を感じ、自らが持つ若い感性と柔軟な発想、パワー溢れる行動力を、今後の地域づくりに活かしていくきっかけの場となるよう取り組みます。

「明るい豊かな社会」の実現のために、未来を描く子ども達の夢とまちづくりを担う地域の力を集めて、多くの方に事業に携わっていただくことを目標とし、一年間全力で取り組みます。そして、長井青年会議所が地域のリーダーとしてまちづくりを先導して行けるよう、率先して行動してまいります。一年間、よろしくお願い致します。

2. 事業目的

1. まちづくりの輪を拡大し、地域の活力と郷土愛を醸成する。
2. 西置賜内外への地域の魅力発信と交流人口の増加を図る。
3. 長井駅周辺の良好な景観の保全と形成を図る。

3. 事業計画

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
地域活性化事業 みんなで灯そう夢灯	関係諸団体・個人と協働して子ども達の描いたランタンに明りを灯し、地域の魅力を発信する地域活性化事業。	6月～10月 予定 あやめ公園 他	¥2,450,000	玉橋
長井駅周辺整備事業	長井駅の壁画保全及び壁画前の花壇の花植え。駅周辺の整備を行う事業。	5月予定 長井駅	¥11,000	遠藤

予算合計 ¥2,461,000

事 務 局

1. 基本方針

本年、我々長井青年会議所は創立50周年という節目の年を迎えます。更に継続していくには、先輩諸兄の築き上げてきたことに感謝の気持ちを持ち、地域に感謝し、より一層地域に求められる組織を目指して成長し続ける必要があります。

長井青年会議所は、「明るい豊かな社会の実現」のため様々な事業を行って参りました。長年継続して行っている事業もありますが、その時々に合わせて地域の皆様が求めるものは変化いたします。その中でより良い事業を行うにはメンバー一人ひとりが連携し、責任と自覚を以って行動しなければなりません。事務局は円滑な組織運営を図りメンバーがよりJ C活動並びに諸団体への協力に集中出来るよう努めて参ります。

事務局では組織の基本となる総会の運営と常任理事会並びに理事会の運営、正確かつ迅速な議事録の作成に努め例会の設営や年会費の徴収及びL O M内における庶務、各種渉外や各種取りまとめを行い組織の一体化に努めます。常任理事会並びに理事会に於いては、スムーズ且つ十分な議論を行えるように出席の促進に努め資料の事前配信をしっかりと行います。また、日本青年会議所、東北地区協議会、山形ブロック協議会、他L O Mとの連絡調整を行い各種大会や事業等の参加を促してまいります。本年は、全国大会東北八戸大会の副主管の担いがあり、同じ東北にて開催される大会に積極的な参加を促しこの貴重な経験を多くのメンバーと共有します。また、ホームページの運営、広報誌「あゆみ」の発行は我々長井青年会議所の活動を多くの皆様に知っていただく機会として大変重要で、情報の充実は会員拡大にも効果的です。魅力ある情報を発信して参ります。

最後に、我々長井青年会議所が成長し続け、常に地域に必要とされる組織であるためには、メンバーが足並みを揃え、熱意を持って汗をかき行動して行く事が大切だと思います。しっかりとメンバーの皆様をサポート出来る組織運営を目指して参ります。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

2. 事業目的

1. L O M内の円滑な組織運営・各種とりまとめを行う
2. 長井青年会議所及びJ C活動を広く効果的に発信する

3. 事業計画

事業名	事業内容	日時・場所	予算	主務
公益社団法人維持に関する事項	公益社団法人化に基づく提案と助言をし、公益団体としての運営体制を構築する	随時	¥0	全員
常任理事会並びに理事会運営	常任理事会及び理事会の資料作成と運営	随時	¥0	全員
総会並びに例会の設営	総会並びに例会の会場設営、総会資料の準備	随時	¥0	全員
新春賀詞交歓会	OB及び諸団体の方に参加頂き、JC活動の情報発信と活動に対する意欲向上を図る事業	1月・はぎ苑	¥18,000	影山
山形ブロック協議会会長公式訪問例会	山形ブロック協議会会長の第4エリア公式訪問に合わせて例会の実施	2月9日	¥13,116	全員
置賜4JC合同例会	置賜4JC合同例会の実施	10月	¥50,000	全員
各種大会、会議とその他対外行事への対応、連絡調整	各種大会、会議とその他対外行事への対応と参加推進	随時	¥0	全員
事務処理業務全般	事務処理業務全般の実施	随時	¥0	全員
次年度理事長候補者所信発表例会	次年度理事長候補者による所信発表例会の開催	9月・未定	¥5,000	大竹
ホームページ運営	ホームページの運営・管理	通年	¥0	影山
広報誌「あゆみ」	広報誌「あゆみ」の発行	適時	¥0	影山
記録の管理	記録のデータ管理	随時	¥0	全員
年会費の徴収	会員の年会費の徴収	随時	¥0	全員
卒業式	卒業式の実施	12月	¥0	全員

予算合計 ¥86,116

2015年度

収支予算書

2015年度正味財産増減計算書 当初予算

2015年1月1日から 2015年12月31日まで

(単位：円)

科 目	2015年度 当初予算	2014年度 10月補正予算	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1)経常収益				
基本財産運用益	0	0	0	
基本財産受取利息	0	0	0	
特定資産運用益	0	0	0	
特定資産受取利息	0	0	0	
受取入会金	120,000	50,000	70,000	
受取入会金	120,000	50,000	70,000	¥10,000×12名(新規会員数)
受取会費	3,320,000	3,036,000	284,000	
正会員会費	3,240,000	2,808,000	432,000	¥90,000×30名(年初会員数)+年度内入会者分¥45,000×12名(月割による)
特別会員会費	40,000	120,000	△ 80,000	¥20,000×2名(卒業者より)
賛助会員会費	40,000	40,000	0	¥20,000×2名(長井市長、長井商工会議所会頭より)
その他会費	0	68,000	△ 68,000	
事業収益	105,000	40,000	65,000	
登録料収益	105,000	40,000	65,000	JC杯中学野球大会(春季)登録料¥35,000：¥5,000×7校、人材育成セミナー登録料¥70,000：¥1,000×70名
広告料収益	0	0	0	
販売収益	0	0	0	
雑収益	0	0	0	
受取補助金等	2,166,000	335,010	1,830,990	
地方公共団体補助金	0	0	0	
民間補助金	2,116,000	120,000	1,996,000	夢灯 JTNPO助成金：¥1,500,000、創立50周年記念事業：¥300,000、講演会 ドコモ市民活動団体補助金：¥216,000、寺子屋：¥100,000
地方公共団体助成金	50,000	20,000	30,000	フラワーボランティア謝礼金：¥20,000 長井市PTA連合会：¥30,000
民間助成金	0	195,010	△ 195,010	
受取負担金	0	0	0	
受取負担金	0	0	0	
受取寄付金	1,105,000	1,261,554	△ 156,554	
受取寄付金	1,105,000	1,261,554	△ 156,554	夢灯企業協賛金¥690,000：¥3,000×230口、JCカード還元金¥5,000 創立50周年記念式典協賛金¥410,000：¥10,000×41(内新入会員10名含)
受取寄付金振替額	0	0	0	
雑収益	0	0	0	
受取利息収益	0	0	0	
その他の雑収益	0	0	0	
経常収益計	6,816,000	4,722,564	2,093,436	
(2)経常費用				
事業費	5,526,015	4,231,767	1,294,248	
地域開発事業	3,573,980	2,109,779	1,464,201	
青少年育成事業	847,980	1,013,774	△ 165,794	
公益事業共通	272,129	283,055	△ 10,926	
内部例会及び会員交流系事業	409,266	156,906	252,360	
広報系事業	84,830	84,090	740	
その他組織運営に関する事業	337,830	584,163	△ 246,333	
収益事業等共通	0	0	0	
管理費	1,289,985	1,020,797	269,188	実数合計：¥2,186,050
役員報酬	0	0	0	
給料手当	0	0	0	
退職給付費用	0	0	0	
福利厚生費	50,000	50,000	0	0 香典・弔電・花代：¥50,000
会議費	33,680	14,240	19,440	1月総会会場使用料：¥3,240、会場使用料 ¥：¥11,000、長井商工会議所会議室使用料¥19,440：¥1,620(1時間)×4時間×3回

旅費交通費	0	0	0	
通信運搬費	9,000	9,000	0	送料、切手代、ゆうメール：¥9,000
減価償却費	0	0	0	
消耗什器備品費	0	0	0	
消耗品費	54,500	54,500	0	スローガン看板：¥18,500、会員ネームプレート・バッジ：¥36,000
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	441,500	277,700	163,800	手帳：¥210,000、事業報告書：¥51,500 広報誌あゆみ¥180,000
燃料費	0	0	0	
光熱水料費	0	0	0	
賃借料	20,000	20,000	0	JCルームの賃借料¥240,000：¥20,000×12ヶ月
保険料	8,400	8,400	0	ボランティア活動保険：¥280×30名(年 初会員数)
委託費	130,830	130,830	0	長井商工会議所事務員¥420,000：1ヶ月 ¥35,000、ホームページ作成・更新、ホス ティング料等¥96,600
租税公課	1,000	1,000	0	贈本代：¥1,000
支払負担金	423,375	335,415	87,960	JCI負担金¥52,920：¥1,260×30名(年 初会員数)+¥1,260×12名(新規会員数)、 日本JC負担金¥210,000：¥30,000(基本 額)+¥5,000×30名(年 初会員数)+¥2,500×12名(新規 会員数)、地区協議会負担金¥60,000： ¥5,000(基本 金)+¥1,500×30名(年 初会員数)+¥10,000 ×1名(ゼミナール委員 出向者数)、ブロック 協議会負担金¥170,000：¥10,000(基本 金)+¥5,000×30名(年 初会員数)+¥5,000×2名 (アカデミー委員出向者 数)、国際協力資金 ¥54,750：¥1,825×30名(年 初会員数)、日本 JC出向者負担金、¥40,000：¥20,000(基本 金) ×2名、We Believe購読料¥126,000： ¥3,000×30名(年 初会員数)+¥3,000×12名(新規 会員数)、JC支払負担金 総計：¥713,670
支払寄付金	0	0	0	
支払利息	0	0	0	
交際費	55,000	60,000	△ 5,000	周年会議所お祝い：¥10,000、関係団体 年会費、電報他：¥45,000
雑費	62,700	59,712	2,988	予備費：¥41,999、 振込手数料他：¥20,701
経常費用計	6,816,000	5,252,564	1,563,436	
評価損益等調整前当期経常増減額	0	△ 530,000	530,000	
基本財産評価損益等	0	0	0	
特定資産評価損益等	0	0	0	
投資有価証券評価損益等	0	0	0	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	0	△ 530,000	530,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	△ 530,000	530,000	
一般正味財産期首残高	2,046,125	2,576,125	△ 530,000	
一般正味財産期末残高	2,046,125	2,046,125	0	
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	0	0	0	
一般正味財産への振替額	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	2,046,125	2,046,125	0	

※前年度予算額は、10月理事会で承認された補正予算額である。

公益社団法人 長井青年会議所 2015年度 役員名簿

No.	役職名	氏名	勤務先・役職	勤務先住所・TEL
1	理事長	板垣 洋一	板垣塗装店 代表	長井市高野町2-4-22 88-2805
2	直前理事 未来創造会議議長	齋藤 繁喜	(株)ペルティアーサイトウ 専務取締役	山形市鉄砲町2-20-20 023-625-5151
3	監事	鈴木 喜典	(有)萬寿屋 代表取締役専務	長井市館町北7-7 84-0022
4	副理事	佐藤 真光	宗教法人相応院 副住職	白鷹町鮎貝3547 85-4291
5	副理事	小関 幸一	(株)サンノエ企画印刷 専務取締役	長井市時庭1867-3 88-5208
6	副理事	梅津 壮一郎	(有)三浦屋書店	長井市本町2-3-10 84-2022
7	専務理事	樋口 和哉	(有)新ナガモク 代表取締役	長井市幸町14-18 88-1811
8	未来創造会議副議長	小関 弾	小関司法書士事務所 司法書士	長井市九野本802 84-1592
9	未来創造会議副議長	遠藤 浩樹	(有)遠藤電工 取締役技術部長	長井市泉2128-5 84-4604
10	出向理事	井上 典嗣	(株)事務機センター青光社 代表取締役	長井市東町12-12 84-5497

No.	役職名	氏名	勤務先・役職	勤務先住所・TEL
11	ひとつづくり委員会委員長	小笠原 信吾	小笠原法律事務所 所長	長井市中道2-2-34 87-0777
12	まちづくり委員会委員長	齋藤 圭央	長井交通株式会社 めざみ 交通株式会社 取締役常務	長井市高野町1-1-30 88-2171
13	ゆめあかり委員会	玉橋 恵子	長井市役所 教育委員会 文化生涯学習課	長井市ままの上5-1 84-2111
14	事務局 長	齋藤 憲幸	(有)花ショップポピー 務取締役	長井市成田1422-1 84-7748

公益社団法人 長井青年会議所 2015年度
出向者名簿

公益社団法人 日本青年会議所

渉外委員会 委員	遠藤 浩樹
----------	-------

公益社団法人 日本青年会議所 東北地区協議会

ゼミナール委員会 委員	佐藤 真光
-------------	-------

公益社団法人 日本青年会議所 東北地区 山形ブロック協議会

拡大実践会議 議長	鈴木 喜典
組織進化実践会議 副議長	井上 典嗣
拡大実践会議 運営幹事	齋藤 憲幸
拡大実践会議 議員	小関 弾
組織進化実践会議 総括幹事	梅津壮一郎
組織進化実践会議 議員	那須 丈雄
やまがた協働運動実践委員会 委員	児玉 大輔
コミュニケーションデザイン確立委員会 委員	影山 孝史
地域の未来創造委員会 委員	小笠原信吾
ブロック大会運営委員会 委員	小関 幸一
ブロック大会運営委員会 委員	船山 裕紀
事務局 補佐	山口 康幸
アカデミー委員会 委員	飯澤 喜治
アカデミー委員会 委員	川合 直仁

公益社団法人 長井青年会議所 2015年度 メンバー入会年度・生年 一覧表

	S50年生	S51年生	S52年生	S53年生	S54年生	S55年生	S56年生	S57年生	S58年生	S63年生
H10	見玉 大輔	遠藤 浩樹								
H11										
H12										
H13			鈴木 喜典							
H14			齋藤 繁喜							
H15			那須 丈雄							
H16										
H17				板垣 洋一						
H18		大竹 貴之			樋口 和成 井上 典嗣					
H19										
H20								小園 幸一 佐藤 真光 渡部 清隆		
H21										
H22					梅津壮一郎					
H23										
H24					影山 孝史 菅原 純一			齋藤 憲幸		
H25	小園 弾		井上 真 小笠原信吾			遠藤 謙一	佐藤 和之	鈴木亜由美 橋本 一磨	齋藤 圭央 玉橋 恵子	
H26				飯澤 喜治	中川 一聖	船山 裕紀	川合 直仁			山口 康幸

J C用語の解説

(1) 組織関係

○ J C I

Jaycees International, Inc. の頭文字をとったものである。国際青年会議所の意。各国家青年会議所の連絡、統合、調整機関。

○ N O M

National Organization Member の頭文字をとったもので、国家青年会議所と訳されている。たとえば、日本青年会議所は国際青年会議所の中の1 NOM（国家青年会議所）である。

○ L O M

Local Organization Member の頭文字をとったもので、国家青年会議所の中に属する各地青年会議所のことである。現在日本青年会議所の中には、各地青年会議所（LOM）が存在する。

○ 地区協議会（D O M）

日本青年会議所としての事業計画、方針等を各ブロックおよび各地青年会議所に伝達、浸透させ、また一方、ブロックおよび各地青年会議所の事業活動、意見などを日本青年会議所に報告、連絡するための機関。なお日本青年会議所では便宜上（District Organization Member）という略称を使うことがある。地区協議会の主な事業としては各地区会員大会の主催がある。現在、日本青年会議所は、北海道、東北、関東、北陸信越、東海、近畿、中国、四国、九州、沖縄の10に区分されて、各々に地区協議会がある。

○ ブロック協議会（B O M）

日本青年会議所および地区協議会としての事業計画、方針等を各地青年会議所に伝達、浸透させ、また一方、各地青年会議所の事業活動、意見などを日本青年会議所および地区協議会に報告、連絡するための機関。なお日本青年会議所では便宜上（Block Organization Member）という略称を使うことがある。現在、日本青年会議所には50のブロック協議会がある。なお、主な事業としては、各ブロック会員大会の主催がある。

○ J Cデー

【設定の意義】

日本における最初に青年会議所運動が開始された、1943年9月3日を記念として、毎年9月3日をJ Cデーとする。

【趣旨】

9月3日を中心として日本青年会議所に各地青年会議所の共通の問題点を取りあげ、各地で特色ある行事を計画、遂行し、あわせて青年会議所の高揚と啓蒙を行う。

○ 認承証伝達式

新規に設立を承認されたJ Cに対し、日本J Cからその認承証が正式に伝達される時の式典である。

○ スポンサーJ C

青年会議所未設定の地域の青年有志に働きかけ、設立を指導援護する青年会議所のこと。なお、スポンサーJ Cは設立から3年を経なければその資格がない。

○ コンファレンス

主として特定地域（たとえばアジア、ヨーロッパ等）の国際青年会議所に属する複数の国家青年会議所が参加する国際会議。

○ 世界会議（JCI World Congress）

国際青年会議所が主催する年1回の世界会議で事業計画、予算、役員選出等の決定が行われるJ C Iの最高の意思決定機関。

（2）議事会法関係

○ K J法

川喜田二郎氏によって開発された創造力開発の手法。終切れ法アメーバ法とも呼ばれ、本調査に関連があるかないかの判断をしないで、ひたすら情報をカード化し、そののちに、ある一定の方法で、これらを組み立てて判断するという手法。たとえばグループごとに話し合い、全体会議で発表し、まとめる技法のひとつ。

○ ロバート議事法（ロバート・ルールズ・オブ・オーダー）

多数者の権利、少数者の権利、個人の権利、不在者の権利の4つの権利を基本的な原則として行う会議運営の方法。これは、国連をは

じめ、世界各国で採用され、国際青年会議所、日本青年会議所でも正式に採用されている。

○ ブレーン・ストーミング

みんなが集まって、あらかじめ課題を定めなくて何人にも拘束されることなく自由に自己の創造的アイデアを思いつくままに出していき、集団の集中的ディスカッションによって、より考えを発展させようとするものである。(集団的創造力開発の方法)メンバー間で自由に討議してもらう形式である。質疑応答を行う一方的指示になり、また、発言参加者も一部に限られやすいデメリットもある。

○ パネルディスカッション

パネラーによる密度の高い座談会である。多くの者が全員討議するかわりに数名のメンバーを選んでそのメンバー間で自由に討議してもらう形式である。質問応答を行う一方的指示になり、また、発言者も一部に限られやすいデメリットもある。

○ シンポジウム

語源は、ギリシア語といわれ、親しいもの同士が和やかに食事する意である。ある大きなテーマを中心に多くの報告者によって各々の立場から関連したことが、講演形式によってのべられる。報告講演者の発表時間は、ときには制限される。

○ コーディネーター

会議の際に、それまで出された意見を集約し、調整し、議事を進行させる担当者。

○ アドバイザー

パネルディスカッションなどの討議のときに会議を進行させるために助言を行う講師。

○ L I A

リーダーシップ・イン・アクションの頭文字をとったもので、LDが発展、拡大したものである。個人と集団の指導力を開発するプログラムで実践指導力開発と日本語で訳されている。1968年のマルデルプラタの世界会議でカテゴリー(主要事業)No. 1プログラムに採用された。日本JC発行のNew L・I・A「行動するリーダー」がある。

○LD

リーダーシップ・ディベロップメントの略で指導力開発のこと。JC運動の創始期に「奉仕・修練・友情」の三信条の考え方があったが、その後、JC運動の両輪として「人間の錬成と社会の開発」がうち出され、いわゆる社会開発計画とが推薦されていった。

○CD

コミュニティー・ディベロップメントの略で社会開発のこと。調査、分析、企画、実行、評価という5サイクルで明るい豊かなまちづくりを展開することを意味する。

(3) 運営関係

○アテンダンス

例会、総会等、各会合に出席することをいう。アテンダンスカード、出席の際の参加氏名を印した胸にさす名札と兼用に登録サイン用カードがついていることが多い。

○スリーピングメンバー

不活動会員。資格をもち、活動が義務付けられているにもかかわらず、その活動および例会、総会等にも積極的に参加しない会員。

○例会

週ごと、月ごとなど、一定の期間に日をきめてひらく会合。

○アカデミー

プラトンが、哲学を説いたアテネ郊外の森の名が由来。高等あるいは高尚な学問を説くところ。学問の原点、学究的な人、一般教養をさす。JCでは3年未満の会員を対象として、アカデミー塾が開催される。現在では研究室、研修委員会と呼ばれることが多い。

○アジェンダー

委員会等を運営する時の式次第のこと。

ロバート議事法 (Robert's Rules of Order)

ロバート・ルールとは

われわれ青年会議所は「会議所」の名称の示す如く、会議を開催する機会が多い。「ロバート議事法」(効果的な会議の進め方)を知っているとないでは、JC活動を積極的にやりながらももちろん企業を発展させてゆかなければならない40歳までの最も忙しい年代における時間の生産性に大差ができてくる。

JC活動は暇のある人でなければ出席率は上がらないと考えることは全くの錯覚で、むしろ忙しい中でいかに効率よく仕事を処理し、自己の成長に結びつけるかに意義がある。

そのような意味から効果的な会議を進めるためのルールであるロバート議事法のマスターは、JCメンバーとして必須の条件であるといえよう。

① 青年会議所におけるロバート議事法の導入と普及

会議の運営は、民主主義社会をつくりあげるうえで欠くべからざる要素である。JCIの会議は、早くからこのロバート議事法にて会議を行ってきた。

アメリカの議会や日本の国会でも議事運営細則として取り入れられており、わが国では1955～1956年頃、東京JCの服部礼次郎氏(第5代理事長)が外国を訪問しているうちにロバート・ルールにて会議を運営しているのを何度も見聞した。1956年これを日本において普及すべく、当時のLD委員長名古屋JCの白木氏と服部氏を中心とした東京JCのメンバーが積極的にこれに取り組んだのが最初といえよう。

翌1957年東京においてJCI世界会議が華々しく挙行されたが、このとき、ロバート・ルールにより積極的に運用され、その後1966年の京都におけるJCI世界会議でも採用し、わが国のロバート・ルールによる会議の運営は着々と普及されてきたのである。

② ロバート議事法はどのようにして生まれたか

アメリカの職業軍人であり、工学士であり、かつまた議事法学者でもあるHENRY MARTIN ROBERTは自分の一生をふりかえり、これまで行ってきた約1万時間にも達する民主的運営の場としての会議が非常に効率が悪かったことを反省し、人々にその轍を踏ませぬように会議の中に起こる、ムリ、ムダ、ムラを取り去ることを余

生をかけて研究し、一連のルールにまとめあげた。オーダーポケット版マニュアルを作成し、1915年には200万部を増補し、1922年に議事法等を著し、翌23年ニューヨークで没している。

③ ロバート議事法の基本的原則

ロバート議事法とは数多くの約束事によって運営される会議運用のルールである。

(1) 多数者の権利 (過半数の賛成)

(2) 少数者の権利 (少数意見の尊重)

(3) 個人の権利 (プライバシーの権利擁護)

(4) 不在者の権利 (不在者投票) 等の基本的原則をはっきり擁護しており、決められたルールの中での会議運営の時間効率を高め、議決に対する権利を明確にしている。

「例えば1人のボスの存在のために会議が一方的方向に流れたりまたそれがために嫌気がさしてスリーピング・メンバーに追いやられたりするようなマイナス面を回避することができる。すなわち1人のボスの発言も賛成支持(セカンド)がなければ会議の俎上にのせることができないからである。」

この民主的に運営される議事法の本質こそは貴重なものとなり企画経営、地域社会運営におけるリーダーシップの観点からも共通する能力の体得に大なる効果をもたらすものである。

④ ロバート議事法の具体的な進め方 (会議の効果的な進め方)

会議では準備が完全に行われ事前の研究(議題作成)でいかに激論をたたかわせたとしても、会議にのせた以上は正・副議長の呼吸がぴったり合っていることが必要で、それだけ周到な意思統一のもとに議場に臨めば会議は80%成功したといえる。

このようなブレンをつくることは経営においても必要であり、指導力開発の面からも、議事法の本質を学び、実践することがおのずから集団運営能力を向上させるものとなる。

会員のチームワークをまとめ参加意識をもちあげ、活発な運動へ発展させる手段はまず会議である。会議は効果的会議の進め方により効率的に運ばなければならないが、議事録をとり、議事録署名によって次回からの会議で二度と同じことを繰り返さないようにすることだけでも相当の合理化である。

2015年度版 例会基本フォーム

- 1、開会宣言
- 2、開会点鐘
- 3、国歌並びにJCソング斉唱
- 4、JCIクリード朗読
- 5、JCIミッション並びにJCIビジョン
- 6、JC宣言文朗読並びに綱領唱和
- 7、東北JC宣言文
- 8、日本並びにLOMスローガン唱和
- 9、理事長挨拶
- 10、報告事項
- 11、例会事業（担当委員会）
- 12、監事講評
- 13、閉会宣言
- 14、閉会点鐘

〈準備〉

- ①国旗（左側） ②JC旗（右側） ③日本JCスローガン（左側）
- ④LOMスローガン（右側） ⑤JCソング入りCD
- ⑥CDラジカセ ⑦演台 ⑧ネームプレート
- ⑨出席者名簿（出欠簿） ⑩ゴング

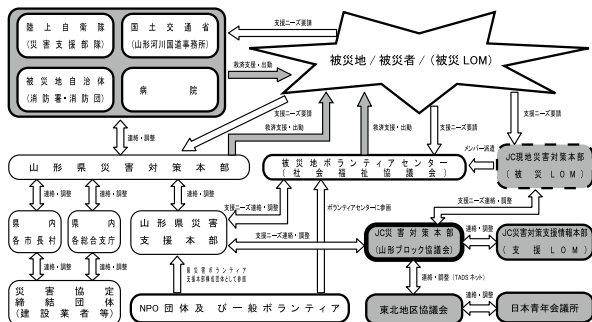
※会場設営は例会担当委員会ならびに事務局で行います。

※例会はメンバー一人ひとりが主役です。忙しいのは誰でも同じ、それに負けず、時間を作る工夫をして出席しましょう。

JC 山形ブロック災害支援ネットワーク

災害時における運営マニュアル

■ 山形ブロック協議会 災害支援ボランティア活動連携図



■ 山形県災害支援本部構成団体について

1) 県域でのボランティア支援・連携体制

JC 災害対策本部が設置された場合には、下記の防災機関、団体と連携を図り被災地ボランティアセンターの支援を行なう。

山形県災害支援本部構成団体（平常時は山形県災害ボランティアネットワーク）

- 山形県県民活動推進室** 山形市二丁目 8-1
 TEL 023-630-2284 FAX 023-624-9908 ykemminkatsdo@pref.yamagata
- 社会福祉法人山形県社会福祉協議会** 山形市小白川町二丁目 3-31
 TEL 023-622-5805 FAX 023-626-1623 you@ymgt-shakyo.or.jp
- 特定非営利法人ディー・コレクティブ** 天童市乱川 2-7-16
 TEL 090-8617-4604 FAX 023-653-0203 works@tmail.plala.or.jp
- 日本赤十字社山形県支部** 山形市松波一丁目 18-10
 TEL 023-641-1353 FAX 023-641-8861 a-kobayashi@jrc-yamagata.com
- 社会福祉法人山形県共同募金会** 山形市小白川町二丁目 3-31
 TEL 023-622-5482 FAX 023-622-5463 akaihane@yamagata.email.ne.jp

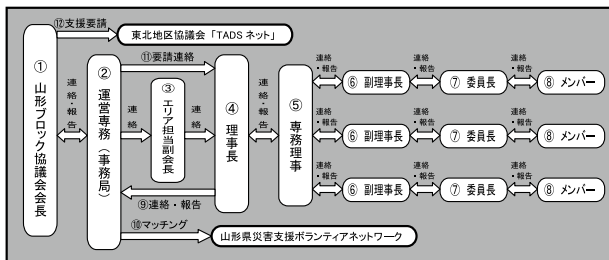
2) 市町村域でのボランティア支援

市町村域で災害支援活動を行なう場合には、下記災害機関、団体と連携を図り、被災者のボランティアに対するニーズを的確に把握し対応する。

- 市町村災害対策本部（設置された場合）
- 独自設置型ボランティアセンター
- NPO、各種ボランティア団体
- 自主防災組織、消防団、町内会等

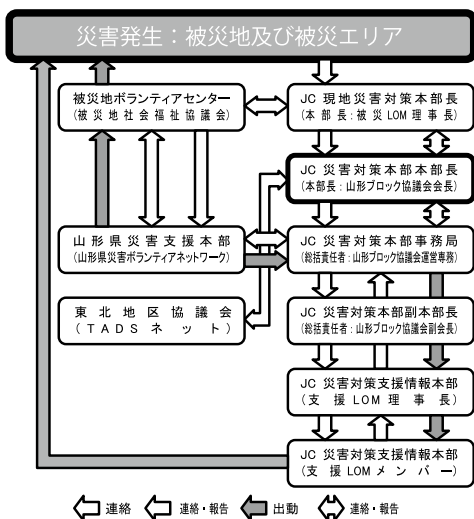
■ JC 山形ブロック災害支援ネットワーク災害発生時の連絡体制

設立要請～発動



- ①、山形ブロック協議会会長は、災害対策本部を設置し被災地 LOM 理事長と速やかに連絡を取って被災状況を確認（現地確認）し、運営専務に被災状況についてエリア担当副会長に連絡を行なうと共に、支援参加要請や災害支援参加の有無について情報を収集するよう指示する。
- ②、運営専務は、総括責任者となり、エリア担当副会長に連絡し各 LOM 理事長に被災状況について連絡を行なうと共に、支援参加要請や災害支援参加の有無について情報を収集するよう指示する。また、災害支援に掛る予算等が必要になる場合、山形ブロック協議会会長と協議し、各理事長に報告する。
- ③、エリア担当副会長は、大規模災害時の支援班長となり、各 LOM 理事長に連絡し、専務理事に被災状況について連絡を行なうと共に、支援参加要請や災害支援参加の有無について情報を収集するよう指示する。
- ④、LOM 理事長は、専務理事に連絡し、副理事長に被災状況について連絡を行なうと共に、支援参加要請や災害支援参加の有無について情報を収集するよう指示する。
※但し、LOM によっては、メンバー全員にメーリングリスト等を使用し、直接連絡する場合があるため、LOM 間のフローは LOM 独自の緊急連絡網を使用する場合がある。
- ⑤、専務理事は、副理事長に連絡し、委員長に被災状況について連絡を行なうと共に、支援参加要請や災害支援参加の有無について情報を収集するよう指示する。
- ⑥、副理事長は、委員長に連絡し、メンバーに被災状況について連絡を行なうと共に、支援参加要請や災害支援参加の有無について情報を収集するよう指示する。
- ⑦、委員長は、メンバーに連絡し、被災状況について連絡を行なうと共に、災害支援参加の要請を行なう。
- ⑧、メンバーは、災害支援参加について委員長に連絡をとる。
- ⑨、LOM 理事長は、LOM 内の災害支援参加の有無について運営専務報告する。
- ⑩、運営専務は、山形県災害支援本部に連絡を取り、支援ニーズを確認しマッチングを図る。
- ⑪、運営専務は、支援内容（人的・物資・ボランティアセンター補助等）を LOM 理事長に連絡し、マッチングを行なう。
- ⑫、山形ブロック協議会会長は、ブロック内で支援が不足する場合あるいは、現状状況について東北地区協議会 TADS ネットに書き込みを行う。
※支援要請の有無に関わらず、震度5以上の地震又はその他の大規模な災害を確認した場合は、LOM 内の緊急連絡網を活用する事。
※山形ブロック協議会は、連絡を取り合う役割について、マニュアルの把握を徹底する。
※県内の被災地のみならず、県外の有事の際においてもこれを利用する。
※各役割への従事が困難な場合は、ブロック協議会及び LOM 内、または近隣 LOM と協議し、必要な場合これを代行する。

■所属エリアで災害が発生した場合 ～現地災害対策本部～



①被災地 LOM 理事長は、初動連絡として LOM メンバーの安否確認を行なうと共に、災害発生について LOM メンバーへの周知連絡を行なう。また、山形ブロック協議会会長に災害があった旨を連絡し、被災直後の状況について連絡する。

※初動連絡については、LOM 独自の緊急連絡網によるものとする。

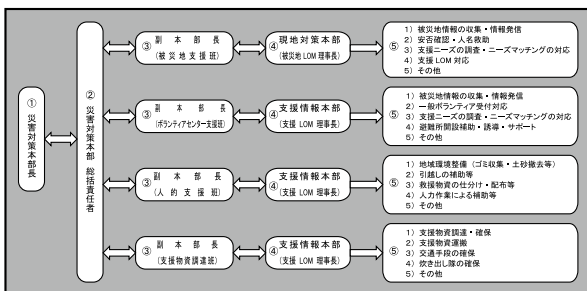
JC 山形災害対策本部が設置された場合、JC 現地災害対策本部本部長として就任し、下記の職務を遂行する。

- 1) LOM メンバーの安否確認を行なう。
 - 2) ボランティアセンターへ LOM メンバーを派遣し、連絡・調整を行なう。
 - 3) JC 山形災害対策本部本部長と連絡・調整を行なう。
 - 4) 状況に応じ、LOM メンバーに作業指示を行なう。
 - 5) 近隣 LOM 理事長と連絡を取り、被災地周辺の状況を確認し必要な場合、支援要請を行なう。
 - 6) 支援希望 LOM の受付窓口として、LOM メンバーとともに的確に誘導する。
- ②被災地専務理事は、災害発生 の状況について副理事長に連絡を取り、メンバーの支援可能の情報について収集する。とりまとめ後、理事長に報告する。
- ③被災地副理事長は、災害発生 の状況について委員長に連絡を取り、メンバーの支援可能の情報について収集する。
- ④被災地委員長は、災害発生 の状況についてメンバーに連絡を取り、メンバーの支援可能の情報について収集する。

※各役職への従事が困難な場合は、ブロック協議会及び LOM 内、または近隣 LOM と協議し、必要な場合これを代行する。

■JC 災害対策本部の立ち上げ及びその活動

災害支援活動時組織図



①JC 災害対策本部長は、災害支援に対して JC 災害対策本部を設置して、それぞれの役割と職務分掌を行なう。本部長は、総括責任者にその旨を伝える。

②総括責任者は、①の旨を副本部長に報告する。また、本部長より連絡を受けた後、災害対策本部の総括責任者として、それぞれの副本部長が努める班の情報を取りまとめると共に、支援に掛かる経費及び費用を各班の報告を受け予算を決定し、支援情報本部本部長に報告する。また、本部会議を招集し、円滑に行動を起こせるよう努める。

③副本部長は、各班の責任者となり、支援情報本部長を班長として迅速に行動する。また、各班の情報を速やかに総括責任者へ報告し、円滑に行えるよう努める。

④支援情報本部長の役割については、以下の3活動は県単位の支援が必要な場合に山形県災害対策支援本部から委託される場合がある。また、ボランティア活動の内容及び班編制については、被災状況と経過により変化する。

◎ボラセン支援：被災地情報の収集・発信、一般ボランティア受付対応、支援ニーズの調査・マッチング、避難所開設補助・誘導・サポート

◎人的支援：地域環境整備（ゴミ収集、土砂撤去等）、引越し補助等、救援物資の仕分け・配布等

◎支援物資調達班：支援物資の調達・確保・運搬、交通手段の確保・誘導、炊出し作業等

※災害対策本部長は支援情報が不足すると判断した場合、事務局及び副本部長と協議し東北地区協議会への要請依頼を行なう。

※災害支援活動をする前に支援希望者に対して、ボランティア保険に加入していただけます。災害支援本部事務局は参加人員をとりまとめ、市町村社会福祉協議会に申込みます。保険未加入者に対しては支援活動を自粛していただく場合があります。

有事の際のあなたの立場と役割

■所属 LOM で被災があった場合

被災があった場合、私の立場は _____ です。

- ①、有事が発生した場合、私は _____ から、次の行動について連絡を受けます。
- ②、被災等の連絡を受け、私は _____ に連絡をします。
- ③、私は、 _____ 班として、 _____ を準備します。

■私の緊急連絡網

被災があった場合、下記優先順位にて連絡します。

- ①、 _____ 携帯： _____
携帯メールアドレス： _____
その他のツール : _____
- ②、 _____ 携帯： _____
携帯メールアドレス： _____
その他のツール : _____
- ②、 _____ 携帯： _____
携帯メールアドレス： _____
その他のツール : _____

